

R7 公明党会派 視察研修（宮崎県&鹿児島県） 日程表

日程	時間・場所				移動手段	
	発		着			
7月23日 (水)	6:00	遠藤→山本→阿部		6:45	麻生駅	タクシー
	7:00	麻生駅		7:50	新千歳空港	バス
	9:00	新千歳空港		10:35	羽田空港	AirDo14
	11:40	羽田空港		13:25	鹿児島空港	ANA623
	13:40	鹿児島空港		13:50	トヨタレンタカー鹿児島空港店	送迎車
	14:00	トヨタレンタカー鹿児島空港店		15:20	志布志市役所	レンタカー
	志布志市「チョイソコしぶし」視察 (15:30~17:00)					
	17:10	志布志市役所		17:20	ホテル志布志	レンタカー
「ホテル志布志」宿泊						
7月24日 (木)	9:00	ホテル志布志		9:40	都城市 Mallmall	レンタカー
	都城市「Mallmall」視察 (10:00~12:00)					
	昼食					
	13:00	都城市		15:00	知覧特攻平和会館	レンタカー
	知覧特攻平和会館 見学 (15:00~17:00)					
	17:00	知覧特攻平和会館		18:00	ホテル京セラ	レンタカー
「ホテル京セラ」宿泊						
7月25日 (金)	9:30	ホテル京セラ		9:45	トヨタレンタカー鹿児島空港店	レンタカー
	9:50	トヨタレンタカー鹿児島空港店		10:00	鹿児島空港	送迎車
	11:05	鹿児島空港		12:15	伊丹空港	JAL2404
	12:50	伊丹空港		14:40	新千歳空港	JAL2007
	15:20	新千歳空港		16:20	麻生駅	バス
	16:20	麻生駅→阿部→山本		17:00	遠藤宅	タクシー

公明党会派 行政視察報告

【視察日時】 令和7年7月23日（水）

【視察場所】 鹿児島県志布志市

【視察者】 遠藤典子、山本由美子

【視察内容】 地域公共交通「チョイソコしぶし」について

「チョイソコしぶし」とは、決められた停留所間を移動する予約型の乗合送迎サービスです。

石狩市は北海道中央バスの路線廃止に伴い、平成28年から浜益～厚田間でデマンド交通を導入してきました。令和4年からは公共交通空白地域を対象とした「市内デマンド」と、新港地域への通勤手段となる「通勤デマンド」の実証運行を開始し、令和6年以降、順次本格運行へ移行しています。

一方、令和6年暮れには庁舎以北の路線廃止が突然告げられ、市は急きょ代替交通案を提示しました。現在は住民との意見交換会が進められており、他市の取り組みを学ぶため、今回視察を実施しました。

鹿児島県志布志市は人口約27,000人と、石狩市のおよそ半分規模の自治体ですが、高齢化率は30%を超えており、高齢者の移動手段の確保に関しては、石狩市と同様の課題を抱えています。同市では、令和元年度の計画推進事業を進める中で、トヨタカローラ株式会社より「チョイソコ」事業の提案を受け、協働事業として検討を進めた結果、令和2年7月から「チョイソコしぶし」の運行が開始されました。

〈運行内容〉

- ・事前予約制 月～金曜日（祝日は運休） 午前9時～午後4時
- ・住宅地停留所：ごみステーション（住宅地停留所間での移動は不可）
- ・目的地停留所：公共施設停留所と事業所停留所（病院・スーパー等）
- ・事業所停留所の利用条件：65歳以上または障がい者手帳所持者

令和4年から運行エリアが市内全域となり、細かな利用条件があっても、日常の移動手段として月600件もの予約が入り、2台の車では対応できなくなり増車を検討しているとのことでした。

市内には鹿児島交通株式会社が運営するバス路線があり、競合の観点で確認したところ、バス路線と重複する移動については予約時にバス利用を原則として案内し、乗車希望時間の前後 30 分に 1 本のバス便もない場合のみチョイソコの利用が可能となっているとのことでした。この点については、石狩市では北海道中央バスとの調整が進まず、同様の対応が困難だった経緯があります。

また、「チョイソコしぶし」の大きな特徴として、停留所となる事業所とスポンサー契約を締結し、その契約収益が増えるほど市の支出が減る仕組みを採用していることが挙げられます。事業所停留所のスポンサーには医療機関が多く、利用者もその停留所を多く利用する傾向があります。それでもなお、運行経費として年間 2,500 万円の支出が発生しており、今後もスポンサー数および利用者数の拡大に取り組んでいく必要があるとの説明を受けました。

志布志市の予約型乗合送迎サービスは、高齢者の買い物や通院などの日常的な移動支援を主目的としているため、平日の午前 9 時から午後 4 時までの運行で、その目的がおおむね達成されているとのことでした。一方、石狩市では、庁舎以北の北海道中央バス路線が完全に廃止されると、通勤・通学の時間帯を確保する必要があり、早朝や夜間の移動への対応が不可欠となります。このように、自治体ごとに抱える課題には違いがありますが、課題解決に向けて知恵を絞り、より良い仕組みとするため、引き続き積極的に意見を発信してまいります。



報告者 遠藤典子、山本由美子

公明党会派 行政視察報告

【視察日時】 令和7年7月24日（木）

【視察場所】 宮崎県都城市

【視察者】 遠藤典子、山本由美子

【視察内容】 市街地中核施設「Mallmall（マルマル）」について

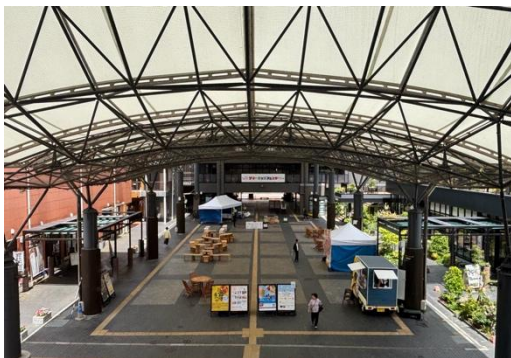
1. 都城市の概要

宮崎県の南西部に位置し、面積 650 km²、人口 16 万人で、県内では宮崎市に次ぐ第2の都市です。主要産業は農業で、ふるさと納税の返礼品を「肉と焼酎」に特化した結果、過去5回「ふるさと納税日本一」を達成し、令和5年度の寄附総額は194億円に上りました。

昭和から平成にかけて9町村と合併し、平成に入ると宅地開発や商業店舗の郊外化・大型化が進展しました。その影響で中心市街地の商業店舗は撤退が加速し、中心部にあった百貨店3店舗も閉店しました。市は中心市街地活性化に向けて様々な計画を立てて取り組みましたが当初は失敗が続きました。

2. 中心市街地活性化と「Mallmall」の整備

2011年に財務省出身の新市長が就任し、コアシティに向けた計画が策定されました。2018年には中心市街地に中核施設「Mallmall（マルマル）」がオープンしました。これは、2011年に閉店した「都城大丸」を改修し、図書館や子育て世代活動支援センター等を備えた複合施設となっています。



3. 施設概要

【図書館】

・空間的高質化業務（デザイン、レイアウト）、指定管理業務、カフェ運営業務の3委託業務を一体的に担う事業者を公募型プロポーザルにより選定。

・管理者を整備段階から関与させることで、高質な設えと円滑な管理運営が実現。

・グッドデザイン賞、コンパクトなまちづくり大賞、ベスト育児制度賞など、受賞歴多数。

【子育て世代活動支援センター「ふれびか」】

◆ 1F

・「まちなか交流センター」：キッチンスペース、会議室などを備え、貸室として利用可能。

・「まちなか広場」：イベントが開催される屋根付きの多目的広場。

・「中央バス待合所」：路線バスの結節点であり、高齢者の憩いの場。

◆ 2F

・「保健センター」：母子健診、乳幼児健診を広々とした空間で実施。

◆ 3F

・「子育て支援センター」：未就学児と保護者が利用できる屋内遊び場で、専門スタッフによる一時預かりや育児相談を実施。

・「おひさまテラス」：木製大型遊具や砂場を備えた屋外遊び場。

・「プレイルーム」：小学3年生までの子供と保護者が利用できる屋内遊び場。

【中核施設附帯駐車場】

旧都城大丸立体駐車場を改修し整備したもの。

【民間施設立地支援事業「TERRASTA（テラスタ）」】

スーパーマーケットを必須条件として公募された施設。

1F:スーパーマーケットと駐車場、2F:オフィス、3F:レストラン、4～7F:ホテ

ル。

4. 市民参加と利用状況

市民とのワークショップを80回以上実施し、ニーズ調査を行いました。現在も「ふれあいアンケート」で市民の意見収集を継続しています。市民交流を重視し、子育て世代の女性を主要ターゲットとして整備を進めました。図書館は学生にも人気で、600席が満席になることもあります。施設全体には1日平均5,000人が来館し、そのうち3,000人が図書館利用者です。この集客力はオープンから8年経った現在も維持されています。

5. 移住促進と連動

ふるさと納税の税収増を背景に、最大500万円の移住応援支援金を創設し、2年前には3,750人が移住しました。移住理由として「コア施設があり、子育て施設が充実していること」が多く挙げられています。

6. 事業費・財政計画

中核施設整備事業費として65億円であり、社会資本整備総合交付金、合併特例債、基金、一般財源で賄われています。毎年1億円ずつ返済していますが、ホテルやマンション等の周辺開発が進みエリア価値が向上していることから、30年かけて回収する方針です。

7. 所感・気づき

市街地中核施設は大きな財政負担を伴いますが、長期的なまちの価値向上、子育て支援の充実、市民交流の拠点づくりにおいて重要な役割を果たします。本市としても、今後のまちづくりで参考にできる点は多いと感じました。

特に、天候に左右されない移動しやすい施設設計は、子育て世代だけでなく高齢者にも有効であり、石狩市の公共施設整備にも応用できる視点だと思います。今後のまちづくりに、今回の学びをしっかりと活かしてまいります。



報告者 山本由美子

公明党会派 行政視察報告

【視察日時】 令和7年7月24日（木）

【視察場所】 鹿児島県南九州市知覧町

【視察者】 遠藤典子、山本由美子

【視察内容】 「知覧特攻平和会館」見学

「知覧特攻平和会館」は鹿児島県南九州市知覧町の特攻基地跡の一角に建設されており、第二次世界大戦末期の沖縄戦で、爆装した飛行機ごと敵艦に体当たりした陸軍特別特攻隊員の遺影、遺品、記録などの貴重な資料を収集・保存・展示することで、当時の真情を後世に正しく伝え、世界の恒久平和に寄与する施設です。

海底から引き上げられた零式戦闘機が無惨な姿で展示されており、この戦闘機に10代後半から20代前半の若者が何を想い、敵艦に向かっていったのかを想像すると、胸が締め付けられる思いでした。

1,036名の隊員の遺影が並び、家族や恋人に宛てた遺書や手紙などの遺品も展示されています。「国のために」という大義名分の中にも揺れる葛藤が読み取れ、とりわけ母親への感謝と別れの言葉が綴られた遺書には、深い感動と涙を禁じ得ませんでした。これらの遺書には世界記憶遺産への登録申請が行われているとのことで、後世に確実に引き継がれていくことを強く願います。

また、道路の両脇には遺族などの寄進による灯籠が並び、会館周辺のもの合わせ1,290基に及びます。特攻戦死者1,036名分を超える数の灯籠は、平和を希求する心を象徴しており、「戦争は二度と繰り返してはならない」という願いを込め、静かに私たちを見送ってくれているようでした。



報告者 遠藤典子